

20年度 KA教育3D研究会 『公開授業見学会』レポート

公開授業見学会



グループコミュニケーション公開授業
会場：順天中学・高等学校
開催：2008年11月29日(土)



順天中学・高等学校

中高一貫で総合学習に取り組む姿勢と成果が 着実な成果となって表れた公開授業見学会

学校全体でプログラムを

推進し他校の見本となる

順天中学・高等学校は3D教育プログラムを導入して、2009年で9年目を迎える。公開授業がスタートしたのは2005年度。同校の教員、他校の教員などにグループコミュニケーション（以下グルコミ）の模様を公開し、いろいろと批評をもらいながら、今後の運営に生かすという趣旨で始められた。その後、プログラムは学校全体に着実に浸透。KA教育の代表取締役・菊地淳氏によると、同校は「学校全体でプログラム推進に取り組み、他校の見本となっている」と言うことで、公開授業も他校の教員が学べる要素が多いという評判だ。

今回は中等部1年～3年、高校1年～3年が、4つの時間帯（終了時間が10分ずれる時間帯もあり）で授業を実施。テーマは中等部は1年が「してもらったこと・してあげたこと」、2年が「エゴグラム診断」、3年が「“もったいない”が地球を救う」。高等部は1年が「進学の必要条件を考える」、2年が「ジョハリの窓」、3年が「10年後の私からの手紙」と、盛りだくさんの内容だった。



また、中等部1年生に限っては、8時台後半から、赤十字の方を招いての講演会が行われた。いずれにせよ参加した先生方にとっては、様々なパターンの授業を見ることができた見学会であり、時間帯も主に8時台後半からのスタートと、10時前後からのスタートの2パターンがあったため、時間的にも、より多くの教室を見ることができた。

「10年後の私からの手紙」を

寸劇風に演じるユニークな授業

参加者は朝、会議室に集合。各校の教員たちが挨拶をしながら、「授業の展開の仕方を学びに来た」「高校1年生の導入事例は初めて見るので楽しみ」「プログラムをどのように推進しているのか興味があった」など、見学会に臨む考えを述べた。その後、同校の片倉敦教頭から、1日のスケジュールや授業を見る際のポイントなどの説明があり、それぞれ興味がある授業へと足を運んで行った。

授業が始まり、最初に「10年後の私からの手紙」をテーマにした高校3年生の様子を見た。特に3年3組は、生徒が10年後の自分を演じるという寸劇風のグルコミを行っており、生徒が2人（男女のペア）前に出てきて、黒板の前で10年後を想定して演じる様子は、終始和やかで笑いの溢れる授業だった。教室の前を通りかかった他校の教員（見学会参加者）も、賑やかな雰囲気に関心を示し、途中から見学に参加する人もいた。何より人前でも物怖じせず、将来の自分を客観的に見つめ、現実に即した“10年後の自分”を演じている生徒たちの姿が印象的だった。



隣のクラスも3年生で、同じテーマで授業を行っていたが、こちらはグループごとに分かれて授業を行うという、オーソドックスな形をとっていた。だが、3組がユニークな手法を採り入れていただけに、オーソドックスな授業と比較することもでき、見学者にとっては得るものがあったようだ。実際、2つのクラスを行き来して、熱心にメモをとっている人もいた。

「しっかり構造化がはかれている」

など高評価を示す意見もあり

二時限目は中等部1年生の、「してもらったこと・してあげたこと」をテーマにした授業を見学。中等部1年ということで、当然ながら高等部3年と違い、グルコミの授業中も静かな感じで、グループに分かれての話し合いも、高3ほど活発には行われていなかった。だが、中学1年の時からグルコミを体験することで、高3になった時、3組のような、しっかりした意見を述べられるようになるのかもしれない。中1から高3までを同じ日に見学することで、同校における総合学習の、一つの成果を見たような感じがした。

授業終了後は、同校の教員がスケジュール的に忙しかったため、意見交換会は実施されなかったが、帰りがけ参加者の声がいくつか聞かれた。例えば、「繰り返し行っていることで、“個人で考える部分とグループで実施する部分” “どのようにまとめるか” など、しっかりと構造化がはかれていたように思う」「私が回ったクラスは非常に雰囲気がよく、生徒の活発さや明るさが印象的だった」などの意見があった。この日の見学会は、同校にとっても、参加者にとっても実りの多い催しだったようだ。



出
来
る
・
大
丈
夫
・
大
成
功

KA教育3D研究会

2008.11.29 KA教育3D研究会 公開授業見学会 in 順天中学・高等学校

株式会社KA教育
〒173-0012
東京都板橋区大和町12-12
03-6784-7675